

第25回 芦原科学賞大賞受賞者インタビュー

～お客様への「お役立ち」と豊かな社会基盤づくりを目指して～

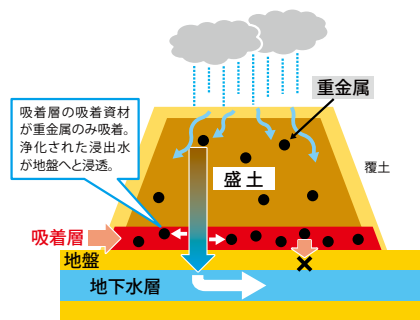
大津理事長が株式会社アムロンを訪問

「第25回 芦原科学賞」で大賞を受賞(テーマ:人工ゼオライトと無機化合物複合体を主成分とする重金属類吸着資材を用いた吸着層工法の開発)された株式会社アムロン 開発本部 環境事業部の藤田次長と推薦者の岩崎社長を訪ね、(公財)かがわ産業支援財団 大津理事長が、開発のご苦労やこれからの事業展望、抱負についてお聞きしました。

訪問した株式会社アムロン(高松市末広町)は、鉄鋼、エンジニアリングを中心とする総合商社として事業を展開しており、建設、産業機械、環境、ITなど、幅広い事業分野において、お客様への「お役立ち」と豊かな社会基盤づくりを目指している会社です。



芦原科学賞大賞贈呈式の受賞者記念写真
(左から 受賞者 藤田次長、推薦者 岩崎社長)



吸着層工法の概要



開発した「CAMZ-S」をはじめとする
重金属類吸着資材

■ 芦原科学大賞の受賞

理 事 長：この度は、芦原科学大賞受賞、誠におめでとうございます。まず、受賞されたお気持ちをお聞かせください。

藤田次長：今回の受賞で、お客様も含め、様々な方々からお祝いの一報をいただきました。アムロンの主幹事業は鉄鋼ですが、それだけではないということがPRでき、非常にうれしく思います。また、我々の技術は、目で見てすぐに良いものかどうか判断しづらいところがあ



大津理事長



受賞者 藤田次長

りますが、今回の受賞で、製品の信頼性・安全性面での評価を飛躍的に伸ばすことができましたと感じています。

岩崎社長：これまでの20年間の努力が報われたというのが正直な感想です。これで本格的に国内の環境浄化事業に貢献できる、お客様のお役立ちができる、また、海外にも打って出るスタート地点に立てたかなと思っています。



推薦者 岩崎社長

■ プロジェクト立ち上げの経緯と成果

理 事 長：今回の技術開発を進めるきっかけは何だったのでしょうか。また、どの様なご苦労があったのか、お聞かせください。

岩崎社長：環境事業は、20年前に水質を浄化するセラミックの製造開発に携わったことに端を発しています。その後、10年位前に重金属類の浄化に取り組み始めましたが、その時点で、重金属類の浄化に特化することに決めました。この一点突破のために、必要な研究開発施設を整え、藤田次長を中心とした人材の採用・育成に努めるとともに、人的・設備的にも自社の資源を補完するため、大学・プラント企業・ゼネコン等、外部との連携を進めてきました。これら皆さんのサポートと、我々の研究努力が醸成され、今回の開発につながったと思っています。

理事長：今回の開発に当たって、これまでの御社の技術・ノウハウ等、過去の蓄積がどのように活かされてきたのでしょうか。

藤田次長：我々の環境浄化に係る開発のスタートは、分野で言うと水処理でした。今回、土壌の汚染対策ということで評価をいただきましたが、両者には密接な関係があります。根底にある技術としては、水処理で培った吸着剤の合成技術をベースとし、その技術を極めた上で、応用先として土壌を次のターゲットとしました。

理事長：今回の開発に当たり、どのような点に苦労されましたか。

藤田次長：研究開発当初は、他の製品と比べてどれだけ性能を上げられるかということに力点を置いた製品づくりになっていました。そして、お客様に対して、性能が良いのでほんの少しだけ吸着剤を入れれば大丈夫ですと説明していたのですが、お客様からは、そんな少量では土に混ざるのには難しいのではないかと、どの様に混ざるのかというご指摘をいただき、その際、お客様の視点に立った、現実に即した使いやすいものを開発しなければいけないということに気付かされました。こういったお客様からのお声をいただきながら、開発を続けることで、今回の吸着資材、吸着層工法に辿り着くことができました。

理事長：今回開発した吸着資材、吸着層工法を適用する際、注意しなければならない点はどのようなところでしょうか。

藤田次長：今回開発した吸着資材が使われるのは、まさに土木工事の現場であり、極論すれば、誰でも取り扱えるところまで仕上がった製品としておく必要があります。この考えのもと、製品・工法を開発しておりますので、お客様に特に注意していただくことはないと考えています。

理事長：こういった土壌汚染対策は他の会社でも実施されていると思いますが、他社と比べて優位な点はどのようなところでしょうか。

藤田次長：現場によって吸着の挙動が異なることがありますが、我々の製品は10種類以上あり、これらを現場毎に最適な形でカスタマイズできるというのが強みになっていると考えています。また、我々は、基準値を超えた重金属類が出ることで、どのようなリスクを持つことになるのか、そういったところも考えて提案しておりますので、お客様に対して、信頼と安心感も併せた手厚いサービスがご提供できていると考えています。

■仕事のやりがいと抱負

理事長：仕事を通して、喜びや感動、誇りを感じる時はどのような時でしょうか。

藤田次長：やはりお客様の課題を解決した時です。課題が多ければ多いほど、それだけ成長できるチャンスでもありますので、無理難題をお客様からいただくということは、有り難いことだと思っています。

理事長：今後の抱負についてお聞かせください。

藤田次長：これまで、水、土壌と来て、次は、人が活動する限り出てくる廃棄物の分野で、確固たる基盤を築ければと考えています。そして、鉄だけじゃないアムロンを目指したいというのが私の抱負です。

■今後の展望と社員の皆様へのメッセージ

理事長：今後の事業の展望と取組方針についてお聞かせください。

岩崎社長：お客様がサプライチェーンで困っている部分について提案するのが我々の使命だと思っています。工事が必要であれば工事しますし、お客様が図面を携えて相談に来れば、外注から内製にも対応しますし、場合によっては、図面を描くところからご協力することもあります。我々は、お客様からの様々な要望にお応えすることでサプライチェーンにイノベーションを起こしたいと考えています。これは、鉄鋼でも環境でもIT分野においても同じですし、現状も今後も変わらず、こういう方針で取り組んで行きたいと思っています。

理事長：最後に、岩崎社長から、受賞者をはじめ社員の皆様へのメッセージをお願いします。

岩崎社長：企業は人なりと考えており、経営理念にも「社員が誇りを持って働ける会社であり全社員の幸福を図る経営であること」と謳っていますが、常に全社員がどうすれば誇りを持てるのか、それを念頭において会社のあり方を模索して行きたいと考えています。

理事長：本日は素晴らしいお話をありがとうございました。これからも本県の産業をリードする中核企業として、益々発展し、ご活躍されることを大いに期待しております。



インタビューを終えて記念撮影
(左から 大津理事長、藤田次長、岩崎社長)

インタビューを終えて

お客様から依頼された課題に立ち向かい、それを解決することに誇りと喜びを感じるという言葉から、株式会社アムロンの強みを感じ取ることができました。アムロンの代名詞である鉄鋼分野だけでなく、環境分野においてもさらなる飛躍が期待できる、素晴らしいインタビューとなりました。